

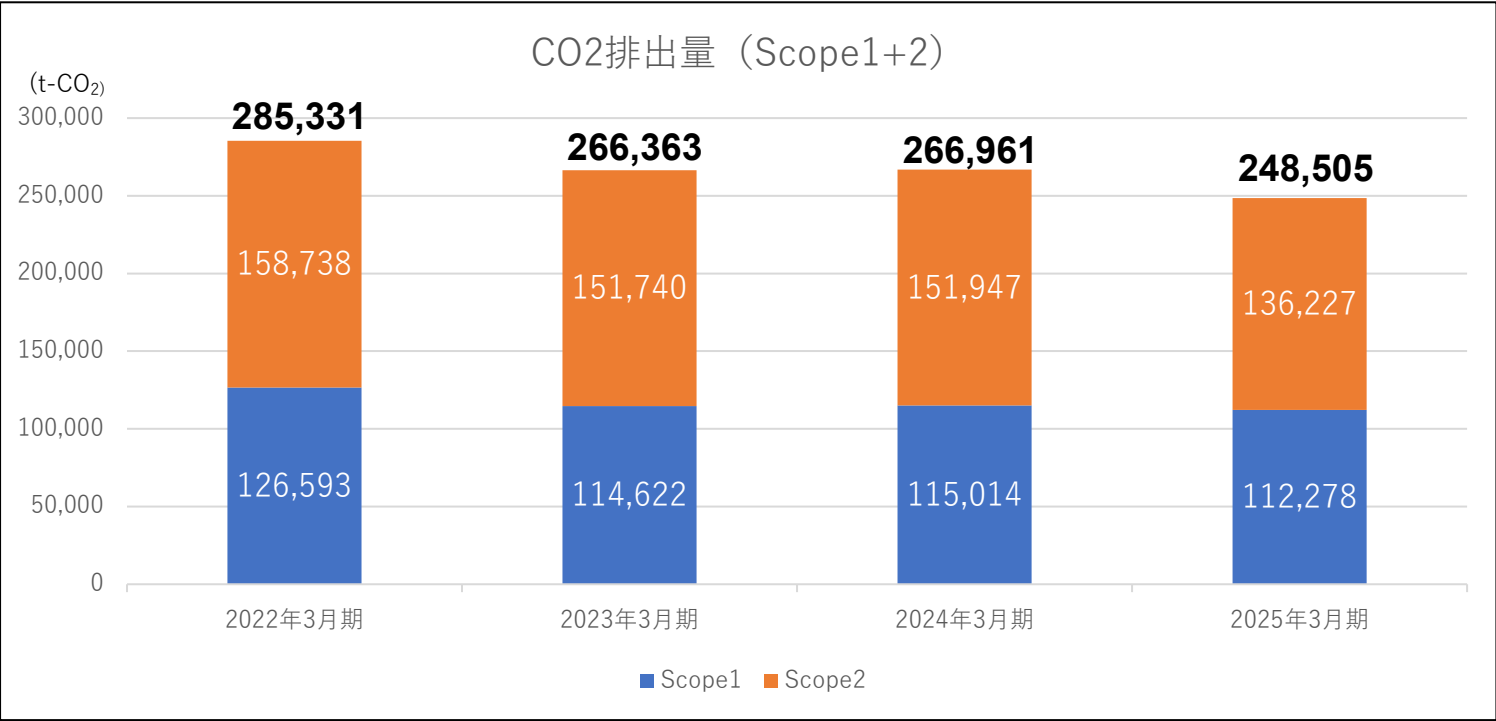
CO2排出量削減に向けた取り組み

2025年12月作成

◆CO2排出量(5 卸) ※アルフレッサHD、スズケン、メディパルHD、バイタルケーエスケーHD、東邦HD

	単位	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
Scope1	t-CO ₂	126,593	114,622	115,014	112,278
Scope2	t-CO ₂	158,738	151,740	151,947	136,227
Scope1+Scope2	t-CO ₂	285,331	266,363	266,961	248,505

※上記5卸の売上高は
卸連加盟企業総売上高の約9割
※数値は各社公表データの単純合計



◆CO2排出量(世界)

単位：t-CO₂

世 界(2022)	日 本(2023)	運輸部門	製薬業	医薬品卸売業
338億トン	9億8,900万トン	1億9,000万トン	170万トン	26.6万トン
	<u>2.9%</u> 世界に占める割合 (世界第5位)	<u>19.2%</u> 日本全体に占める割合 (世界0.56%)	<u>0.17%</u> 日本全体に占める割合 (世界0.005%)	<u>0.02%</u> 日本全体に占める割合 (世界0.0007%)

※世界のCO2排出量(2022年)：出典「全国地球温暖化防止活動推進センター(J C C C A)」

※日本(運輸部門)のCO2排出量(2023年)：出典「2022年度の温室効果ガス排出・吸収量(環境省)」

※製薬業のCO2排出量(2023年)：出典「製薬業界の地球温暖化対策(日薬連)」

※卸売業(5卸)のCO2排出量 (2023年)

基本的な考え方

人々の生命と健康に携わる事業活動を展開するアルフレッサグループにとって、健康保全是重要な課題であると認識しています。グループ理念の「私たちの約束」に基づき、医薬品等の開発から、製造・物流・販売、そして廃棄に至る各段階において、環境関連法の順守に加え、環境負荷の低減に自主的かつ積極的に取り組んでいます。

当社は、「グローバル・バリューチェーンを通じた削減貢献」で掲げる2050年カーボンニュートラルにコミットしている(一社)日本経済団体連合会に加盟し、2050年度のCO2排出量実質ゼロの達成に取り組むとともに、生物多様性の保全にむけて経団連自然保護協会とも連携しています。

すべての人々が健康に暮らせる社会の実現に向け、当社グループは環境負担低減に取り組んでいきます。

EPISODE CO2排出量削減の取り組み

アルフレッサ(株)とエーエル プラス(株)、ヤマトグループとともに脱炭素化を加速

～5拠点にEV車両45台を導入～

アルフレッサ(株)とエーエル プラス(株)は、ヤマトグループとの協働により、ヤマトオートワークス(株)が提供する脱炭素化トータル支援サービス「EVライフサイクルサービス」を通じて、アルフレッサグループのCO2排出量削減に向けた取り組みを加速させています。

アルフレッサ(株)とヤマトグループは2019年に、今後の医療提供体制や労働力不足等の社会課題への対応を協議する「医薬品流通研究会」を設立しました。以降、持続可能な医薬品流通ネットワークの構築に向けて、医薬品等を患者様のご自宅までお届けするラストワンマイル配送やヘルスケア商品の共同配送スキームの構築など、協働により多くの成果を上げてきました。今後は、これらの成果をさらに発展させ、2051年3月期までにCO2排出量を実質ゼロにするという当社グループの目標に向けて、GHG排出量の削減とコスト削減の両立を図る基盤の構築を目指していきます。

「EVライフサイクルサービス」は、GHG排出量削減策の立案、EV車両調達や充電器の設置、EV運用における効率化(EMS^{*3}、再エネ供給など)、EV入れ替え・廃棄時まで、トータルで支援いただけるサービスです。EVの導入により、100%内燃車と比較して、3～5割程度のCO2排出量を削減できる見通しであり、既にアルフレッサ(株)の府中事業所で4台、群馬物流センターで10台、京都医薬品センターで3台の合計17台、エーエル プラス(株)府中事業所で12台、京都事業所で16台の合計28台、両社合わせて45台の導入が完了しています。今後は、当社グループ全体でのEV導入の展開に向けた戦略の検討に加え、再生可能エネルギーの導入も検討していきながら、グループの目標である2051年3月期のカーボンニュートラル達成を確かなものにしていきます。



アルフレッサ(株)の府中事業所に導入したEV車両

^{*3} EMS(Energy Management System): 施設や車両のエネルギー使用状況を見える化し、制御・最適化するシステム

■ 2025年4月から、摩耗による交換時や新入社員への新規貸与分から順次エコ制服を導入

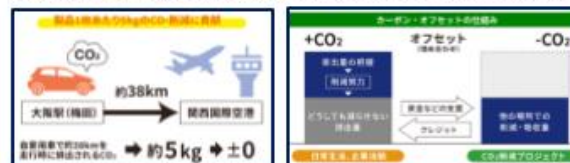
再生PET素材80%使用の商品を採用



カーボンオフセット付きユニフォーム

◆カーボンオフセットとは

日常生活や企業活動の中で排出されるCO2を他の場所での排出削減プロジェクトにより削減された排出枠でオフセット(相殺)することでCO2総量として差し引きゼロにするものです。



ボトルテック・カーボンオフセット・エコマークの
プリント入りで、着用するだけで環境活動へ寄与

1枚あたり 5kg のCO2 削減に貢献

※自家用車等が約38km走行した時に排出するCO2に相当

廃棄物削減の取り組み

当社グループは、廃棄物削減を重要な課題と位置づけています。この課題達成のために、単に最終的な廃棄物を減らすだけでなく、「アルフレッサグループ環境方針」や、その方針を具体的な行動につなげるための「アルフレッサグループ調達方針」および「アルフレッサグループ調達ガイドライン」に基づき、バリューチェーン全体で多角的なアプローチを推進していきます。

具体的には、資源調達から製造・流通・販売、そして廃棄・リサイクルまでのバリューチェーンのすべての過程において資源を効率的に利用することで廃棄物の発生そのものを抑制することなど、サプライヤーの協力を得ながら、リサイクルや廃棄物管理といった資源循環の取り組みを通じて、発生した廃棄物の再資源化を図っています。包括的な廃棄物削減への取り組みを通じて、環境負担低減や環境保全を推進していきます。

マテリアルリサイクル化への取り組み

アルフレッサ ファーマ(株)は、循環型社会の実現に向けた具体的な取り組みとして、2025年2月より岡山製薬工場において製造過程で生じた医薬品包装(PTPシート)の廃材のリサイクルを推進しています。これまでPTPシートの廃材は埋め立て処理されていましたが、土に還らないアルミとプラスチックは環境への負担が過大となっていました。その解決に向けて、廃棄物専用処理業者と連携し、アルミとプラスチックに分離して再資源化するプロセスを導入し、2025年3月期にはアルミとプラスチックの**合計で1.3トンのPTPシート廃材のリサイクルを実現**しました。リサイクルされたアルミは新たな原料としてプラスチックはカーペットや建材などの再生素材として活用されます。

アルフレッサ ファーマ(株)では、今後もマテリアルリサイクル化*等、先進的な技術の導入を通じて、より効果的な資源循環の仕組みを追求し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。*マテリアルリサイクル：使用済み製品や廃棄物を物理的な処理によって再資源化し、それを再利用するリサイクル方法のこと



【その他の取り組み】

- ・医薬品配送用EV車両の導入
- ・ビッグデータ・AIを活用した配送業務量予測による燃料使用量の抑制
- ・再生可能エネルギーの導入推進（太陽光発電設備の導入など）
- ・工場・オフィスでの省エネ型空調設備への更新

●太陽光発電設備の導入

アルフレッサ ヘルスケア（株）
九州物流センター（2025年2月稼働）

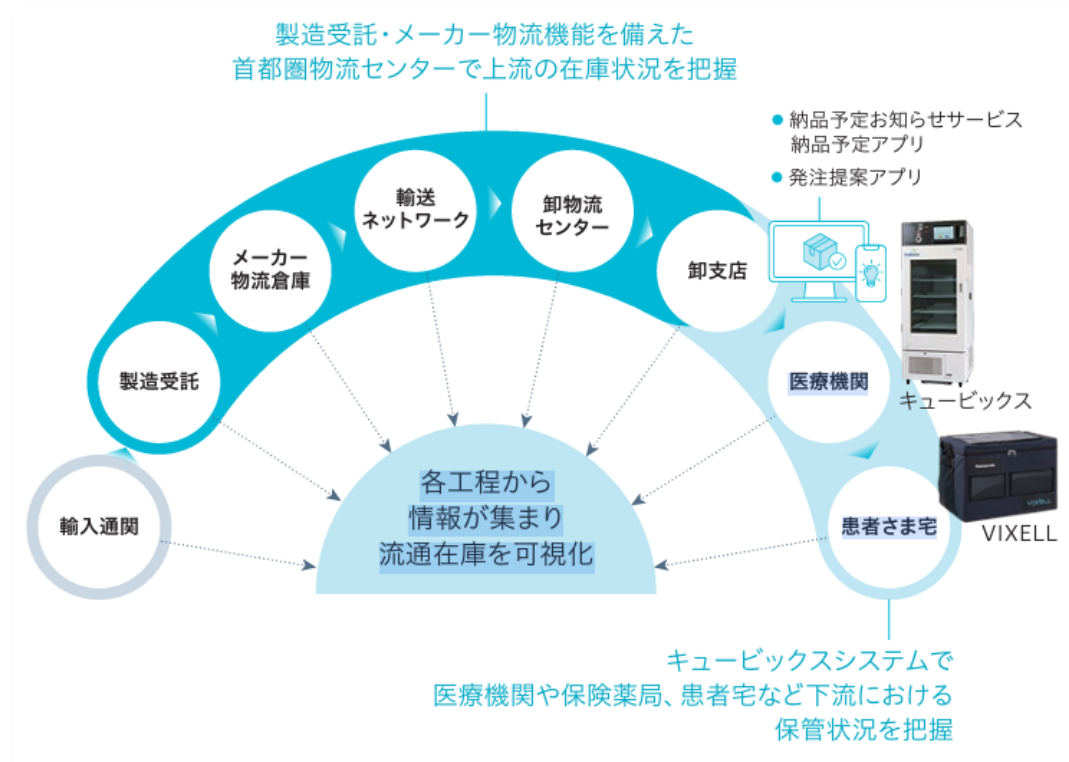


スマートロジスティクスの推進

医薬品が製薬企業の工場や物流センターから患者さまの手元に届くまでのサプライチェーンにおいて独自の「医療流通プラットフォーム」を構築し、安定供給や品質管理の強化、流通在庫の最適化を図ってきました。

今後は、デジタル技術を導入することで医療流通プラットフォームを強化し、「スマートロジスティクス」の実現を目指していきます。この仕組みによって、市場に流通する在庫のリアルタイムでの把握や、輸送・保管状態の見える化が可能になり、市場の需給調整による医薬品の偏在防止やより正確なトレーサビリティの確保が可能になります。

流通在庫の最適化を図り、需給調整機能による医薬品廃棄ロスの削減や、輸送に伴うCO2排出量の削減にもつなげ、医薬品物流における社会コストの低減に貢献していきます。



配送の効率化

- ・顧客ニーズに基づく最適な配送体制の構築（配送ルートの見直し、車両台数の削減）
- ・在庫管理の提案による頻回配送、急配回数の削減

CO2排出量削減を目的とした省エネ活動「3Green Action」

①グリーンオフィス

- ・事務所内の省エネ活動の推進
 - ・一部の事業所や物流センターにおける太陽光発電、LED照明、高効率空調機などの省エネ設備・機器の導入
- ※各物流センターには最大発電能力、阪神（10KW）、神奈川（20KW）、千葉（20KW）、宮城（20KW）、合計で70KW（40Wの蛍光灯1750本分）の太陽光発電パネルを設置

②グリーン営業・グリーン物流

- ・営業車両のハイブリッドカーや低燃費車量への切り替え（2024年3月末で86.9%の切替が完了）
- ・営業・配送時のエコ運転の励行

③グリーンIT

- ・省エネタイプのIT機器（パソコン、サーバーなど）への切替え、新規導入

再生可能エネルギー導入や省エネ設備への切り替え

営業・配送車両のハイブリッドカーや軽車両への切り替えを進め、2025年3月末現在で**88.6%の切り替えを完了**しています。

また、新たにEV車の導入や事業所・物流センターでの太陽光パネルの追加設置や、LED照明、高効率空調機など省エネ設備・機器への切り替えを推進しています。

2024年には首都圏物流センターで使用する電力のグリーン電力への切り替えや、複合機の省エネタイプへの切り替えを進め、CO2排出量を削減しています。



新規導入した配送用EV車



宮城物流センターに追加した太陽光パネル

ハイブリッド車・電気自動車の導入

各拠点において、保有車両をハイブリッド車や電気自動車へと順次切り替えることで、自社の燃料使用に伴う温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。

さらに、一部拠点では来訪するメーカーに電気自動車用の充電設備を開放することで、取引先の電気自動車の利用促進にも貢献しています。

保有台数

ハイブリッド車

電気自動車

419 台

153 台



環境配慮型電力の使用

当社グループでは、一部建屋の屋上に太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーを活用した自家発電を行っています。発電された電力は建屋内で使用し、消費電力の一部を賄うことで温室効果ガス排出量削減に寄与しています。

2024年度には新たに2カ所で導入し、現在稼働している拠点は合計3カ所となりました。また、グループ内の36カ所の建屋においては環境配慮型電力への切り替えを進めており、あわせて非化石証書の調達などにより、電力使用に伴う温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。

再生可能エネルギーの使用率

19.5 % (前年度 14.5%)



(株)メディセオの阪神ALC*に設置している太陽光パネル

モーダルシフトによる環境負荷削減

(株)メディセオ、日本石油輸送(株)、日本貨物鉄道(株)、日本フレイトライナー(株)の4社による共同プロジェクトにおいて、物流センター間の医薬品輸送におけるモーダルシフトに取り組んでいます。

従来の大型トラック輸送に代えて、環境負荷の少ない鉄道コンテナを利用した輸送方式への切り替えを一部エリアで実施し、輸送時の温室効果ガス排出量の削減を図っています。

2025年4月からは、新たに首都圏から北海道間の輸送についてもモーダルシフトを開始しました。

これらの取り組みを年間換算すると、従来の輸送方法と比較して**温室効果ガス排出量を約71%、約446tCO₂削減**できる見込みです。

モーダルシフトの概要図

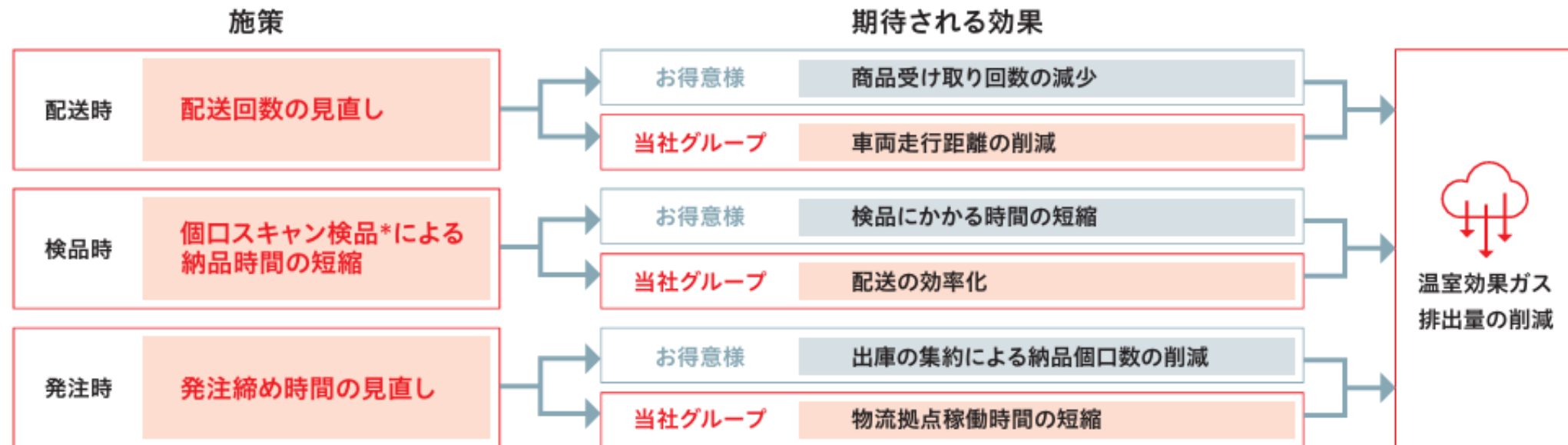


医薬品流通最適化による温室効果ガス排出量削減

医療用医薬品等卸売事業において、チェーン展開する調剤薬局やドラッグストアなどのお得意様と協働し、医薬品流通の最適化モデルを構築することで、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。

具体的には、店舗ごとに最適な医薬品在庫量を分析・管理するとともに、発注・納品・検品といった業務プロセスの見直しにより、配送負荷の軽減や業務の効率化を図り、流通に伴う温室効果ガス排出量の削減につなげています。

流通最適化による温室効果ガス排出量削減の流れ



- ✓ お得意様と当社グループ双方の課題解決に向けたサプライチェーン全体最適化のご提案
- ✓ 導入企業・店舗数の拡大により、効率化と施策効果も加速

当社グループの事業活動におけるGHG排出量削減

環境負荷低減に貢献する取り組みとして、輸送網や物流拠点の最適化などを推進し、輸送によるGHG排出量削減に取り組むとともに、環境負荷の少ない施設・設備への入れ替えを順次進めています。

- 電力使用量監視システムの導入
- 照明器具のLED化
- 人感センサー・昼光利用センサーの導入
- HV・EV車の導入
- 太陽光パネルの設置（宮城物流センター・兵庫物流センター）
- 電子化によるペーパーレスの実施
- 森林認証紙・再生紙の使用
- 高効率空調機の導入



▲リターナブルなオリコン



▲充電中の電気自動車



▲物流センターに設置された太陽光パネル

BCP（事業継続計画）の整備

4℃シナリオ

異常気象による物理的な影響の発生が予想されます。医薬品卸売事業へのリスクとして、風水害によりバイタルケーエスケー・グループやサプライヤー企業が所有する設備が被災し、配送遅延や事業停止の発生が想定されるため、BCPの策定や物流センターへの災害対策に取り組んでいます。

一方で、新たに獲得できる機会として、気候変動による感染症の増加に伴い医療物品需要が拡大した際に、当社グループの物流体制の強みを活かした迅速な医療物品普及が挙げられました。そのため、これまで培ってきたネットワークを活かし、有事に備えた物流体制を構築していきます。

●ドローンによる長距離医薬品配送の実証実験

（株）ケーエスケーでは、2022年12月に解禁された「有人地帯での補助者なし目視外飛行（レベル4）」を起点に、利用者が必要なタイミングで速やかかつ安定的に医薬品を供給できる可能性を追求するため、ドローンによる医薬品輸送の社会実装に向けた取り組みを検討しています。

これまで（株）ケーエスケーはレベル2での実証実験からスタートし、レベル3相当での実験も行い段階的に取り組みを推進してきました。2025年度以降も引き続き、ドローンの社会的進展を注視しつつ、市街地での飛行や複数のドローンの活用なども視野に入れて実証実験に取り組んでいく予定です。

平時における山間部やへき地への配送課題の解決や、災害時の配送体制整備として、安全・安心・安定の物流体制を構築すべく、社会実装に向けて、グループ一丸となって取り組んでまいります。



BCP（事業継続計画）の整備

●災害対策車両の導入

（株）ケーエスケーでは、2025年5月に、災害対策車両として悪路走破性に優れた四輪駆動車を導入しました。最大積載量500kg、30.4度のアプローチアングルや最大45度の安定傾斜角、センターデフロック、急な下り坂でのブレーキ制御（HDC）などを備え、さらに大型タイヤやキャノピーなどのカスタマイズがなされています。大規模災害時に備え、医薬品を確実に医療機関等に届ける役割を担うべく、現在兵庫物流センターに配備しています。既に（株）バイタルネットでは同様の災害対策車両を2台保持しており、2023年の秋田県豪雨、2024年の能登半島地震の際にも被災地で支援活動を行いました。どんな時にも医薬品の流通を止めないという強い使命感のもと、これからもBCP対策を進めてまいります。



脱炭素化の推進

当社グループは、気候変動への取り組みを重要課題の一つと位置付け、サステナビリティ推進委員会を中心に気候変動に関するリスクと機会の特定、当社グループに与える影響、および具体的な対応策等を検討しています。また、必要なデータの収集と分析を進めており、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）が提言する情報開示フレームワークに沿った開示を進めています。



指標と目標

当社グループは、温室効果ガスの排出量を指標とし、温室効果ガスの排出量の大きい領域や削減対象を把握し、環境負荷の低減に努めています。社会的環境の変化を踏まえ、自社の排出を対象とするScope1およびScope2については、短中長期的な削減目標を設定しています。また、Scope3に対する取り組みも重要であると認識し、具体的な削減目標を検討しています。今後も仕入先や顧客との協働を進め、温室効果ガスの排出量削減に向けた取り組みを進めていきます。

指標		目標	2019年度（基準）	2024年度（実績）
温室効果ガス排出量 （Scope1・2）	● 短期（2025年度）	： 40%削減	40,886tScope1-CO2e	22,538t-CO2e（44.9%削減）
	● 中期（2030年度）	： 60%削減		
	● 長期（2050年度）	： カーボンネガティブ		

環境方針の策定

当社グループは、事業活動が地球環境に与える影響を認識し、持続可能な社会の実現に貢献することを重要な経営課題と位置付け、東邦ホールディングス環境方針を策定しています。

配送効率の向上と輸送時の排出量削減

当社グループは、配送の効率化と輸送時の温室効果ガス排出量抑制のため、以下の取り組みを推進しています。

- ・ 新配送端末と計画配送システムを導入し、配送状況の可視化と最適な配送スケジュールを策定
- ・ 薬局本部システム「ミザル」との連携による計画配送の推進
- ・ TBCダイナベースにトラック予約受付システムを導入し、トラックの待機時間を減らすことでトラックからの排気ガス排出を抑制

新たな配送手段の検証

環境負荷低減を踏まえたサステナブルな配送手段の実現に向けて、多様な企業と共同で実証実験を進めています。

- ・ ドローン、ロボットを活用した輸送手段の検証（ブルーイノベーション社）
- ・ 自動運転トラックによる医薬品輸送全般の研究開発・実証（T2社）
- ・ 新幹線を活用した医薬品の輸送実証（JR東海・JR西日本）



再生可能エネルギー電力プランへの切替

当社グループの電力使用量の半分近くは物流センターでの電力使用になります。2023年度より物流センターの電力プランを再生可能エネルギー電力に順次切り替え、温室効果ガス排出の削減に取り組んでいます。

2024年度排出量：9,118t-co2e（基準年2019年度比61.2%減）

2025年度排出量見込み：7,078t-co2e（基準年2019年度比69.9%減）

EV車およびEV充電スポットの導入

現在使用しているガソリン車両を順次EV車へ切り替えており、あわせてEV充電スポットの設置を進めています。

太陽光パネルの設置

当社グループでは創エネの取り組みも進めており、現在、山梨、神奈川、広島の事業所に太陽光パネルを設置しています。



物流センターにおける環境負荷低減への取り組み

物流センターにBEMS（Building and Energy Management System）を導入し、使用量の管理を行っています。
また、TBCダイナベースでは夜間電力によるロボットの自動ピッキングを採用し、さらにピッキング方法に工夫を施すことで省エネルギー化を実現しています。

医薬品製造販売事業における廃棄物の削減

医薬品製造販売事業では、医薬品卸売事業や調剤薬局事業と連携して市場の需要を正確に予測し、過剰生産を防ぐことで廃棄品の発生を最小限に抑制しています。また、包装箱を廃棄しやすい（廃棄時に手で容易につぶしやすい）デザインに変更したことで、包装箱廃棄時のかさを減らす工夫をしています。

医療機器のリサイクルプロジェクトに参画

ノボ ノルディクス ファーマ株式会社の日本初の使用済みのペン型注入器のリサイクルプロジェクト、「ReMed™ 使用済み医療機器に、新たな使命を。」に参画し、プラスチック廃棄物の削減に貢献しています。



環境マネジメントシステム：ISO14001：2015の取得

共創未来ファーマの工場では、省エネルギーや廃棄物削減の活動を継続的に改善していくため、環境マネジメントシステムの国際基準規格「ISO14001：2015」の認証を取得しています。

アルフレッサHD

①環境への取り組みを紹介している頁

https://ssl4.eir-parts.net/doc/2784/ir_material_for_fiscal_ym23/189006/00.pdf
https://ssl4.eir-parts.net/doc/2784/ir_material_for_fiscal_ym23/189021/00.pdf
https://ssl4.eir-parts.net/doc/2784/ir_material10/263251/00.pdf
<https://www.alfresa.com/csr/esg/environment/>

②データ集

https://ssl4.eir-parts.net/doc/2784/ir_material10/263251/00.pdf

③統合報告書（全て）

https://ssl4.eir-parts.net/doc/2784/ir_material_for_fiscal_ym22/188993/00.pdf

スズケン

①環境への取り組みを紹介している頁

<https://www.suzuken.co.jp/csr/environment/>

②データ集

<https://www.suzuken.co.jp/ir/library/>

③統合報告書（全て）

<https://www.suzuken.co.jp/ir/library/annual/>

メディパルHD

①環境への取り組みを紹介している頁

<https://www.medipal.co.jp/csr/environment/activities/>

②データ集

<https://www.medipal.co.jp/csr/esg/>

③統合報告書（全て）

https://www.medipal.co.jp/ir/library/annual_report/

バイタルケーエスケーHD

①環境への取り組みを紹介している頁

https://ssl4.eir-parts.net/doc/3151/ir_material_for_fiscal_ym/189034/00.pdf#page=42

②データ集

③統合報告書（全て）

https://ssl4.eir-parts.net/doc/3151/ir_material_for_fiscal_ym/189034/00.pdf

東邦HD

①環境への取り組みを紹介している頁

<https://www.tohohd.co.jp/assets/data/SB2025.pdf>
<https://www.tohohd.co.jp/csr/environment/environment>
<https://www.tohohd.co.jp/csr/environment/climatechanges>
<https://www.tohohd.co.jp/csr/environment/policy>

②データ集

<https://www.tohohd.co.jp/assets/data/esg2024.pdf>

③統合報告書（全て）

https://www.tohohd.co.jp/assets/data/IR2025_d.pdf